

毛布を通し心の交流

毛布配布隊 エチオピアから帰国



一枚の毛布は体を温めるだけでなく、明日を生きようとする「希望」をアフリカの人々に与え続けている

「アフリカへ毛布をおくる運動で全国から寄せられた毛布を手渡すため、10月25日からエチオピアを訪れていた「アフリカ毛布配布ボランティア隊」(隊長・西岡由哲、平教会長の一行が11月8日、全行程を終え、帰国した。同隊は本会会員とJHP・学校をつくる会、アフリカ協会など47人で構成。同国ティグレメケレを拠点に、山岳地帯に住む人々を中心に約1万人に毛布を配布した。

(3面に現地リポート)

今年5月1日から6月30日までの運動期間中に全国から集められた毛布は、15万9642枚に上った。これらの毛布は、8、9の両月に輸送船に積み込まれ、約2カ月間の海路を経てアフリカ各地に到着した。今回は、エチオピア、エリトリア、アンゴラなど9カ国におくられた。エチオピアへは8月15日、第一便として毛布約3万枚を積載した船が出航していた。

村民と輪になり
共に歓喜の踊り

一行は、現地NGO(非政府機関)・REST(ティグレ救援協会)の協力を得て、配布活動を展開。ティグレ州グロメカダ地区での配布を皮切りに7日間、8カ所で延べ11回にわたって、人々に毛布を手渡した。

各地域の配布対象者は、身寄りのない高齢者や身体

に障害を持つ人々など最貧層が中心。周辺の村々から。そのため、疲労や体力配布場所へ、それぞれ一昼の消耗を考慮し、座ったまま

まの村人たちに隊員から速やかに毛布が手渡された。また、エリトリアとの国境付近にあるバランバサ村を訪ね、エリトリア軍に破壊された家屋を視察。国境紛争による村の被害についての説明を行政責任者から聞いた。

RESTのテクレウォイニ・アセファ理事長は「アフリカへ毛布をおくる運動」について、「日本の皆さんが直接、エチオピアの人々に毛布を手渡してくださることは、国の違いを越え、人々を固い絆で結んでくれます。エチオピアと日本のパートナーシップを構築するための基本になるのではないだろうか。一枚の毛布は体を温めてくれるだけでなく、明日を生きようとする希望と励ましを、貧困に苦しむ村人たちに与えてくれるのです」と語り、隊員たちに一層の支援を呼びかけた。